令和５年度　奈良県立明日香養護学校　学校評価総括表

【特別支援学校用】

年度	令和5年（計画2年目）
教育目標	◇「明るく、強く、美しく」生きぬく人間づくり ◇ 児童生徒の自立と社会参加を目指した生きる力の育成
年間重点目標	◆ 適切な実態把握のための研修を充実させる　◆明日香のチーム力で安心安全な教育環境を継続させる　◆教職員一人一人が役割をもちそれぞれに力を発揮する。

運営方針	＊ 児童生徒の自立と社会参加を目指し、発達段階や障害の状況に応じた授業づくりや授業改善を推進する。 ＊ 家庭や医療、福祉等関係機関との連携を強化し、安心安全な教育環境づくりを推進する。 ＊ 教職員一人一人が学校運営の参画者であるという意識を持ち、それぞれの役割を果たす。

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和５年度末の目標値等(C)	令和５年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	一人一人の実態に応じた身体機能の向上、生活動作の向上、及び精神面の健康状態の保持・改善	各家庭や関係機関との連携を図り、動作の学習・摂食指導等を充実させるとともにメンタルヘルスや自己肯定感を育む取組の推進	・からだの支援会議（小中高 年２回） ・動作の学習、摂食指導の研修（小中高 年１回・健康とからだの研修（訪 年１回）からだの楽々学習会（7/22） ・PT・OT・PSW・SSW・SC等関係機関との連携	・からだの支援会議各学部年２回実施 ・自立活動部長、外部専門家の研修、7/22からだの楽々学習会を４年ぶりに実施35名 ・各専門家との連携をケースに応じて実施	今年度の取組実績を生かし肢体不自由校の専門性の確保のために学校内外の資源を活用できるよう取り組む	各専門職との連携を深めながら目的に応じた実施が評価できる。継続実施を望む
	障害の状態を踏まえた安心安全な教育環境づくりの推進	医療的ケアを安心安全に実施できる体制の継続	・医療的ケアの研修（小中高 学期１回・必要に応じて） ・緊急時対応シュミレーション（小中高 年２回以上）全校緊急時対応シュミレーション（年１回） ・医療的ケアの円滑な実施に向けた情報共有と全校医療的ケア報告会（年２回）	・対面での主治医懇談ができ、指示書の様式変更を行った ・医療的ケア研修、緊急時を想定した研修実施（予定通り） ・医療的ケアマニュアル・緊急時マニュアルの見直し ・全校医療的ケア報告会年２回実施	医療的ケアを安心安全に実施できるよう研修やシュミレーションを継続。新様式を本格実施。滞りなくスタートできている	予定どおり実施できている。新様式の運用への取組を評価するとともに継続利用での課題がでてくれば対応を望む
	運動習慣向上のための取組の推進	障害者スポーツ大会への参加率を中・高で10パーセント	・積極的な障害者スポーツの体験（小中高 年間最低2種目） ・校内実施可能なスポーツの一覧表を提示 ＜ボッチャ、陸上競技、フライングディスク、水泳、ボウリング、フットベースボール、ゴールボール、卓球、ゴロ卓球＞	・授業で活用できるようにスポーツ器具の紹介と体育倉庫の整理整頓を行った ・ボッチャは各学部や生徒会等で活用頻度が多かった	児童生徒の実態に合わせて授業等で活用できるように周知していく必要がある	障害者スポーツへの主体的な取組の継続と啓発の一助となるよう校外交流があれば尚良い
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	児童生徒の実態に応じた教育課程による系統的な指導の推進	適切な実態把握を行い、根拠のある目標設定に基づいた授業実践	・重度重複障害児童生徒の教科指導についての研修（年６回） ・Sスケール研修（小中訪 学期１回） ・Co-MaMeを活用した実態把握の実施（病 学期1回）	・重度重複児童生徒の教科指導研修を縦割り班で実施、全体研修、講師研修を実施 ・Ｓスケール研修・Co-Mame研修学部に応じて実施	重度重複児童生徒の教科指導研修を桐ヶ丘養護より講師を招いて行う。Co-Mame研修を適宜実施（病弱）	継続実施を望む
	ICTを活用した教育の充実	児童生徒の実態に応じたICT機器、視線入力装置、アプリなどを活用し主体的に参加できる授業や行事の充実	・オンラインを活用した行事や交流及び共同学習 ・児童生徒の実態や課題に応じたICT活用による学習支援 ・機器取扱アプリ活用研修、視線入力機器、マルチメディア活用研修（年３回以上）	・来校が難しい児童生徒も行事や交流等に参加可能となった ・視線入力装置、デジタル教科書の活用、リモート授業を実施 ・Chrome book・各種アプリケーションの活用等の研修実施	会議資料の閲覧用に端末の活用。次年度も活用研修を実施し教員の活用推進を図る。次年度は「ICT活用推進部」に名称変更	児童生徒の教育の幅、アクセシビリティの拡大に寄与していると評価できる 教職員へのさらなる研修推進を望む
	危機発生に備えた対策の推進	災害発生時や傷病者発生時における教職員の対応力の向上	・災害避難学習，訓練、検証（年３回） ・BCP（災害時における事業継続計画）の検証（年２回）と明日香村との協議（年１回）	・予定通り実施 ・BCPファイルの備蓄品期限を見据えて新規購入を進めた ・明日香村との福祉避難所に関わる協議を２回実施	災害に備えた物資準備やBCPの検証は次年度も継続。明日香村との連携も次年度継続	災害への備え、BCPの策定を継続するとともに多機関との連携をしながら福祉避難所の体制整備の推進を望む
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア発達を促す授業づくりを推進	１２年間を通じて各ステージで必要なキャリア発達について整理・共有	・小中高B課程合同授業会議を通じてキャリア発達を促す授業内容や工夫、付けたい力などの情報共有及び整理（学期１回） ・自立活動の個別の指導計画の書式を見直し付けたい力を整理	・「国語」「算数」小中高合同授業を実施・キャリア教育の視点を大切に情報交換ができた ・個別の指導計画書式を保護者にも分かりやすく変更の予定	来年度も継続的に年間指導計画の作成を行ったり、学部間の情報交換や情報共有を行っていく	さらなる具体的な取組を検討しながら継続実施を望む
	人や社会とのつながりを広げる取り組みの推進	支援体験学習、進路体験学習、スクーリングに向けた取り組みの積極的な推進	・支援体験学習（中 年１回） ・進路体験学習（高 年２回 訪病 適宜） ・社会参加に向けての校外学習（病 年２回程度）	・各学部ともに予定通り計画を立てたが、感染症により予定の変更や中止もあった	中学部では高等部卒業後をイメージして高等部では学年に応じて目標を明確にして実施することができた。次年度も継続	より具体的なイメージができるような体験学習の積み上げを望む
	卒業後を見据えた進路情報の提供	保護者懇談、学部通信、研修等を通した積極的な情報発信	・学部通信や保護者懇談会を通じた情報発信 ・保護者向け学部別進路研修（各学部年１回） ・児童生徒の実態や家庭ニーズに応じた事業所や就労先等との連携	・予定通り実施できた ・保護者向け進路研修を久しぶりに実施 ・「進路指導の手引」を更新・就労支援セミナーの配信・生活介護利用についての協議を行った	学部に応じて必要な情報を継続して発信事業所の職員不足等で本人や保護者の希望に沿った事業所利用が難しくなってきている各方面への働きかけが必要	働く意欲と力が発揮できるよう専門家のアドバイスが長期的に担保できるような仕組みが必要。今後も積極的な情報発信が重要
４．地域と協働して活躍する人を育てる	地域資源を活用した学習の推進	地域の協働推進事業の推進及び児童生徒の実態や課題に応じた地域資源の活用	・ふれあいわくわく学習会（小 年１回） ・地域の協働推進事業（内容は検討中） ・遠足、校外学習等（訪 年２回） ・奈良TIME，社会参加活動（病）	・11/30ふれあいわくわく学習会和太鼓倭 ・10/5地域の協働推進事業あすかのいちごを育てよう実施 ・5/20春の交流会同窓会・7/1夏祭り・9/30秋の遠足 ・11/29万葉文化館へ栞を届ける	地域資源を活用しながら児童生徒の興味関心や実態に応じた取組を継続	良い取組である。今後も児童生徒の興味関心に応じた取組の継続を望む
	センター的な役割の推進	専門性を生かしたセンター的役割の推進	・学校見学会、体験学習、教育相談 ・「あすかで発見」8/3・「行動面や適応面に困難のある子どもへの支援の段階が『見える化』できる」研修会8/18 ・「五條市からだの相談会」８月予定	・5/23,6/2学校見学会35名・教育相談のべ回数261回 ・8/3あすかで発見40名・8/18行動面や適応面に困難のある子どもへの支援の段階が『見える化』できる」研修会72名 ・8/22「五條市からだの相談会」6名	今年度の取組実績を生かし各分掌と連携を図りながらセンター的役割を果たせるよう継続して取り組む	今後もセンター的機能を果たせるようスタッフの協力や支援が地域において継続できるよう望む
	学校運営協議会の運営・推進	学校運営協議会の意見を反映した学校運営の推進	・協議会開催（5/30・１/１９・２/１６）	5/30,1/19学校にて開催2/16書面開催	継続実施	継続実施を望む
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	いじめ防止対策や人権を尊重する意識の向上	いじめや不登校、人権に関わる研修の実施	・人権教育に係る研修（年１回） ・いじめ防止対策研修（年１回）	・8/21「子どもたちを見つめるために」・事例検討会を職員全体で実施	年１回人権教育に係る研修は継続実施 いじめ防止月間にいじめ防止対策を確認	不登校児の全国的な増加に伴い研修を検討する必要もでてきている
	多様性を尊重し仲間と触れ合い共に活動する取組の推進	児童生徒会活動及び居住地校や学校間の交流及び共同学習を推進	・明日香小学校、聖徳中学校、高取国際高等学校との学校間交流（年３回） ・高人教ブロック別ホームルーム研修会11/10 ・居住地校交流（年１～３回） ・挨拶運動（毎月）クラブ活動（学期２回）クリーンキャンペーン（年１回）等	・２学期からは直接交流を実施できた学部が多かった ・11/10高人教ブロック別ホームルーム研修会22名 ・居住地校交流小22名中３名　地域との交流２名 ・予定通り実施	相手校や本人家族の思いを大切にしながらお互いの目標を明確にして交流及び共同学習を実施する	障害の児童生徒が参加できるプロジェクトや活動内容を工夫しながら互いを知り、ふれあいを大切にする場を広げていってほしい
	個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した切れ目ない支援の実現	保護者との連携、福祉や医療、労働等の関係機関と連携を図り、付けたい力や具体的支援の共有	・保護者と長期目標や短期目標、手立ての共有 ・利用事業所や実習先、進路先等との情報を共有	・個人懇談や学期末懇談時に共有 ・必要に応じてカンファレンス、ケース会議等で情報共有	次年度もあらゆる機会を活用し保護者や事業所と適切に情報共有を行っていく	情報共有とケース会議の開催等継続実施を望む

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

中期計画の２年目となり各学部や各分掌において目標設定から評価までの流れに見通しをもって進めることができるようになってきた。コロナ禍を経て学習活動が活発になってきたが、従来の形そのままではなくより効果的に工夫を加えながら企画・実施が可能となっている。令和５年度においては新分掌での効果的な取組をはじめ、新部長や新委員長を中心としたScrap＆Buildを実現しながら課題整理を行うことができたことは一定の評価に値する。学校関係者評価ではお一人お一人から具体的なご意見を賜り、令和６年度の教育活動に是非生かしていきたい。